



つながり

～瞳かがやき笑顔あふれる中央小～



2025（令和7）年
9月19日 配信 No.7

「令和7年度 全国学力・学習状況調査」の結果の概要

日頃より、本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、今年度の4月に実施された全国学力・学習状況調査についてご報告申し上げます。本年度は、国語と算数に加えて、理科も対象となり、6年生全員を対象に実施されました。この調査を通じて得られた成果や課題については、学校全体でしっかりと把握し、今後の教育活動の充実と学習環境の改善に活かしていく所存です。また、同時に実施した「児童質問紙による学習状況調査」では、学習や生活、地域に対する意識、生き方などについて71項目にわたる調査を行いました。その中から、特に注目すべき点や本校の教育方針に関連する内容をピックアップし、以下にてお知らせいたします。

保護者の皆様におかれましても、「まほうのかいわ」をご活用いただき、ぜひお子さまと一緒に振り返りながら学習方法を考え、お子さま自身の成長に気付く手助けをしていただければと思います。

※「まほうのかいわ」は本校ホームページに掲載しております。

	中央小学校の結果概要	今回の調査より〈○よさ ▲課題〉	○改善の方向
国語	◆言葉の特徴や使い方に 関する事項 ・全国平均を下回っています。 ◆情報の扱い方に関する事項 ・全国平均を上回っています。 ◆我が国の言語文化に関する事項 ・全国平均を上回っています。 ◆話すこと・聞くこと ・全国平均を上回っています。 ◆書くこと ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っています。 ◆読むこと ・全国平均を上回っています。	▲学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。 ○情報同士の関係や語句間の関連を理解し、図を使って表現することができる。 ○時間や世代による言葉の変化に気付くことができる。 ○相手の考えと比較して、自分の考えをまとめることができる。 ▲目的に応じて書き方を工夫し、考えを伝えることができる。 ○順序を考えながら、内容を大まかに把握することができる。 ▲記述式の問題の無回答率が高く、正答率が低い。	文脈に合った正しい漢字を書くことや、日常では使う機会の少ない言葉を意識して用いるなど、語彙を広げながら、学んだ漢字を文の中で正しく使う力を育てていきます。 目的や相手を意識し、簡潔に書いたり詳しく書いたりする活動を積み重ねることで、児童一人一人の考えがより伝わる表現力を育てていきます。
	<全国平均に比べて正答率が顕著に低かった問題例> ●「ちらし」の一部分を調べたことを基に詳しく書く。（目的や意図に応じて書いたり、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすること） ●正しい漢字に書き直す。（漢字を文の中で正しく使うこと）		

	中央小学校の結果概要	今回の調査より〈○よさ ▲課題〉	○改善の方向
算 数	◆数と計算 ・全国平均を上回っています。 ◆図形 ・全国平均を上回っています。 ◆測定 ・全国平均を上回っています。 ◆変化と関係 ・全国平均を上回っています。 ◆データの活用 ・全国平均を上回っています。	▲異分母の分数の加法の計算をすることができ ○少数の加法で、数の大きさを比べて共通の単位を捉えることができる。 ○図形の意味や性質について理解している。 ○変わる二つの数量の関係に注目し、必要な数量を見つけ、知りたい大きさを式や言葉で表すことができる。 ○二つの数量の関係に注目し、必要な数量を見つけることができる。 ○簡単な表から、条件に合った項目を選ぶことができる。	分母がちがう分数のたし算を確実に理解できるよう、図や言葉と式を組み合わせさせて考えを説明する活動や、実物や数直線を使って同じ大きさにそろえる体験的な学習を取り入れ、子どもたちが納得して正しく計算できる力を育てていきます。
	<全国平均に比べて正答率が低かった問題例> ▲ $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ を計算する。(異分母分数の計算)		

	中央小学校の結果概要	今回の調査より〈○よさ ▲課題〉	○改善の方向
理 科	◆「エネルギー」を柱とする領域 ・全国平均を上回っています。 ◆「粒子」を柱とする領域 ・全国平均を上回っています。 ◆「生命」を柱とする領域 ・全国平均を上回っています。 ◆「地球」を柱とする領域 ・全国平均を上回っています。	○電磁石の強さが巻数によって変わることを理解している。 ▲ 身の回りの金属には、電気を通すものや磁石に引き付けられるものがあると理解している。 ▲ 種子の発芽条件の共通点や違いから、新たな問題を見いだして表現できる。 ○花や受粉の知識をもち、顕微鏡を適切に操作でき、発芽条件を調べる方法を考えて表現できる。 ○粒の大きさによる水のしみ込み方を基に、ほかの条件での結果を予想して表現できる。	実験や観察を通して身の回りの金属を比べ、電気を通す性質や磁石に引き付け性質を自分の言葉で説明できる力を育てていきます。 実験結果の共通点や違いを比べる活動を通して、子どもたちが自分なりの新しい疑問を見つけ、表現できるようにしていきます。
	<全国平均に比べて正答率が低かった問題例> ▲ アルミニウムや、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ ▲ レタスの種子の発芽の結果から気付いたことを基に、見出した問題について書く。		

<「児童質問紙による学習状況調査」からみえる子どもの実態>

○自己の価値を肯定的に捉えている

本校の子どもたちは、「自分にはよいところがある」に対する肯定的な回答の割合が全国平均より高い結果でした。自分の強みや良さを認識し、自分を大切に思う気持ちが育っていることは、とても心強いことです。

○家庭での学習習慣の充実

本校の子どもたちは、「平日に『3時間以上勉強する』」、「休日に『4時間以上勉強する』」に対する肯定的な回答の割合が、共に全国平均より高い結果でした。日々の生活の中で、学ぶことを大切にしようとする姿勢が少しずつ育っていることは、本校の子どもたちの大きな強みであり、これからの成長につながる大切な土台だと考えています。

▲学び方の工夫

本校の子どもたちは、「分からないことを自分で学び方を工夫できる」に対する肯定的な回答の割合が全国平均よりやや低い結果でした。

→タブレットなどICTの活用は全国的にも先進的に進んでいますが、その活用を学び方の工夫につなげていく力については、これからさらに育てていきたい課題となっています。子どもたちが「どう調べたらよいか」「どんな方法なら分かりやすいか」を自分で考えたり、友達と学び方を共有したりできるような授業づくりを進めるとともに、ICTの便利さを活かしながら、自分に合った学び方を工夫できる力を伸ばしていきたいと考えています。

▲協働的な学び

「友達との話し合いを通して、自分の考えを深めたり新しい考え方に気付ける」に対する肯定的な回答の割合が全国平均よりやや低い結果でした。

→友達と意見を交流しながら理解を広げていく力に課題がある状況です。学校では今後、対話を通して学び合う活動をさらに充実させ、子どもたちが安心して自分の考えを出し合える場を増やしていきます。また、一人ひとりの意見を大切にしながら、互いの考えに気づきや学びを広げていけるような授業づくりに取り組みます。こうした経験を積み重ねることで、子どもたちが「人と学び合うことのよさ」を実感し、主体的に学ぶ力を高めていけるよう支援してまいります。

今回の分析をもとに、学校での授業内容をよりよいものにし、学ぶことの意味、学習への取り組み方などについて伝えてきたいと思いますので、御家庭でもお子さんとお話していただけると幸いです。